

## トピックス 第4回江戸川区教室交流会に150人参加!

今回で第4回となる江戸川区教室交流会は9月28日、区内13教室から約150人が参加して北葛西コミュニティ会館で開催されました。会は土田亨東京都支部副支部長（北地域担当）のご挨拶に始まり、全員での表演の後、三つのグループに分かれての不老拳、対面太極拳の競演、さらに全員で百花拳を演じました。なお、私の指導する「清新くすのきプロバンス会」の『早朝野外太極拳の会』が初参加しました。当日の様子を写真でご紹介します。



## 10月11日（土）野外太極拳にどうぞ!

台東リバーサイドスポーツセンター陸上競技場で開催される「野外太極拳」にご参加ください。参加無料。時間は14時から16時です。今回から、主催「東京都及び東京都レクリエーション協会」による“シニアスポーツ振興事業”の一環として、主管「日本健康太極拳協会 東京都支部 北地域」で、一般の方も参加できる新しい催しとなりました。

## 中野教室やみぞ合同合宿に参加

本部道場中野教室恒例の、今回第32回となる夏合宿に参加しました。茨城県大子温泉の「やみぞ」に、本部道場はじめ、いわき市、白河市など中野二先生ゆかりの各教室から延約70名が参加して、1泊2日のハードなかつ楽しい合宿となりました。【写真は早朝の野外練習。服部隆師範撮影】



## 10月13日（月）亀戸SPで特別イベント開催

江東区・亀戸スポーツセンターでは10月13日（月）体育の日イベントの一環として、同所の大体育室で「いきいき太極拳の集い」を催すことになりました。時間は9時から10時半まで、どなたでも無料で参加できますので、お誘いあってご参加ください。なお、亀戸SP教室は翌14日（火）がお休みとなりますので、会員の方は振り替えとってできる限りご参加ください。なお、一応スポーツセンター受付に

事前に申し込む必要がありますが、当日朝でもOKなようです。

## 閑人閑話 ところ変われば!?

8月にベトナムへ行ったおりに、当地の太極拳を見る機会がありました。ホイアンで連泊したホテルの部屋に“タイチーレッスン 7時から 無料”というビラが置いてありましたので、ためしに覗いてみた

| 2

ものです。  
ホテルの一角が別棟のレストランで、その前のちょっとした広場が会場でした。純白の表演服に身を包んだ男女が5人ほどいましたので、声をかけて見学させてもらいました。準備運動を5~6分行ったあと、すぐ太極拳の表演が始まりました。内容はどうも簡化二十四式のようなようですが、リーダーの女性を除いてはみな初心者ようで（じつはみんなホテルの従業員でした!）、腕が伸びすぎたり弓歩が出来ていなかったり、動きがバラバラだったり、あまり参考にならない表演でした。（写真）



可笑しかったのは、前半はゆっくりと動いていたのに、蹬脚になると、豹変して、素早く一気に蹴り上げてすぐ下ろしてしまったことです。それと、右下勢独立か

ら、いきなり閃通臂に移行してしまったことです。あっけにとられているうちに表演が終わってしまいました。ホテルの宿泊客には欧米人も多かったのですが、残念ながらだれもレッスンには参加しませんでした。



まあホテルのサービスイベントのひとつで、しかもまだ始めたばかりなのでしょうから、これをもってベ

トナムの太極拳は、などとは言う気はありません。

ただ、わたし自身15~6

年前ベトナムのホーチミンで働いていたおりに、現地のスポーツジムで1年ほど太極剣を習ったのですが、帰国して32式の教則本を読んだり、近所でそれを教えている教室に顔を出して比べてみたりしてみると、やはり、内容的にかなりの違いがあることが解りました。

やはり中国から教えられたものでも、ベトナムへ来るとそれなりに変化してしまうということなのでしょうか。まあ、我々の楊名時太極拳にしても、それをまったく知らない中国の人が見れば、ちょっと違うのでは?と首をかしげる

こともあるかもしれません。“ところ変われば太極拳も変わる”ということで話を終えたいと思います。（左の写真はその朝の私の太極拳のワンショットです。）



さこうべん

## 左顧右眄（再開）

【第17話 漢詩に学ぶ・漢詩を楽しむ】

### 第2回 最古の詩集『詩経』から

中国最古の詩集と言われているのが、孔子が編纂したといわれる『詩経』です。いわゆる「五経」の一

つとして知られています。殷代から春秋時代にわたる詩三千余編の中から 311 編を孔子が選んで、儒教の教典の一つとしたものです。内容的には、諸国の民謡を集めた「国風」、儀式や饗宴に用いられた「雅」、皇室などの祭祀にうたわれた「頌」に分類されます。

特徴としては、①メロデーに合わせて歌う歌詞であること、②一句が四言で構成されていて長短さまざまであること、③韻や平仄などの規則がまだ緩やかであること、です。

後世、儒教教育の教科書のひとつとして用いられたため、その本来の意味を故意にゆがめた解釈などが付けられていたようですが、本来的には、とくに「国風」には抒情の詩あり、諷刺の歌あり、なかなか面白いものです。その中から、3編をご紹介します。(なお、訳詩は『詩経』目加田誠著・講談社学術文庫版によりました。【上;『詩経』講談社学術文庫表紙】)



東門の池 (陳風\*)

\*陳の国の歌の意

一、東門之楊	東の門の楊 <small>やなぎ</small> の木	二、東門之楊	東の門の楊 <small>やなぎ</small> の木
其葉胖胖	こんもり茂ったその葉陰	其葉肺肺	こんもり茂ったその葉陰
昏以為期	日暮れに逢おうといったのに	昏以為期	日暮れに逢おうといったのに
明星煌煌	もう明星がきらきらり	明星哲哲	もう明星がちろちろり

女たちが麻を浸しに集まる池があり、そこへ男たちが誘いに集まる、そして約束を交わしたのに、という情景だそうです。万国共通ですね。

有女同車 (鄭風)

一、有女同車	咲いたむくげの華のよう	二、略
顔如薜華	可愛い娘と合乗りで	
将翱将翔	行けばゆらゆら	
佩玉瓊琚	佩玉かざり (佩玉;はいぎよく、帯玉 瓊琚;けいきよ、美石、美玉)	
彼美孟姜	きれいな姜(じゃん)の姉むすめ	
洵美且都	ほんに綺麗でみやびてる	

これも他愛のない内容ですが、おそらくは歌垣のように男女が集団で掛け合いで、娘の名前も適当に入れ替えて、歌いあっていたような歌のひとつかと思います。

碩鼠\* (魏風)

\*大鼠のこと、碩は大きい意、

一、碩鼠碩鼠	大鼠おおねずみ	二、三、略
無食我黍	わが黍を食むなかれ	
三歲貫*女	三年が間仕えしに	*仕えるの意
莫我肯顧	我を憐れむ事もなし	
逝将去女	今こそ汝を去りゆきて	
適彼樂土	楽しき土地に移りなむ	
樂土樂土	樂土よ樂土ああそこに	
爰得我所	生く可き場所もあるべきか	

この歌は、穀物を飽くなく食い荒らす大鼠に例えて、じつは国王やその手先たちの搾取、収奪を恨み、いっそどこかへ逃げようかと嘆きたいへんきびしい歌です。このほかにも、“稼ぎも収めもせぬ人が、なぜに一番実入りがいい”などと社会の配分、身分の不条理を怒る歌もあります。

3000年の昔から中国民衆の苦難は変わらないので、この種の社会詠はいつの時代にもあります。いずれまたいろいろとご紹介する予定です。

# 旅をうたい拳を詠む

## ベトナムの風情を詠う～その2

再びダナンへ戻り、ホイアンに連泊して、ミーソン遺跡観光を挟んで、ホイアンの旧市街を2日にわたり、シクロに乗ったり、歩いたりして楽しみました。

ミーソン遺跡【右写真】はチャンパ王国時代のヒンズー教寺院遺跡です。ホイアンは17世紀ごろ

交易港湾都市として栄えた町で、日本人や中国人がたくさんおり、現在も彼らが建てた建物の一部が残っていて独特の風情を醸し出しています。ミーソン遺跡とともに1999年に世界遺産に登録されていますので、アジアのみならず、欧米からも大勢の観光客が訪れていました。【右下写真；首のないシヴァ神坐像】

### ミーソン遺跡

ミーソン(美山)の山懐にシヴァ神を祀る聖廟いまに残れる  
灼熱の陽にあぶられて本尊のリングは熱く熱を帯びをり  
フランスが首持ち去りしシヴァ神の坐像は哀れ露座におわせる

### ホイアン

とりどりのランタン揺れてあまやかに風が流れる會安の夜  
ゆるゆるとシクロに乗りて巡りゆく陰陽瓦のホイアン古街  
世界遺産となりて凄まじ人の波路地から路地を流れゆくなり  
舟はみな舳先に目玉二つ持ち行方見定め進みゆくらし  
天秤棒担いでフォーを売り歩く菅笠おばさん今も健在  
菓子雑貨果物切り花売る店に食堂もあり賑わう路上  
老木の木陰選べどたちまちに汗の吹き出す早朝の拳  
アオザイをたおやかに着た娘らの会話はまるで小鳥の囀り



【ランタンはホイアン名物。ランタンを売る店が多くあり夜はとくに風情がある。→】

【どの舟も舳先の両側に目玉が描かれているので、まるで生きているようなところが面白い。↓】

